

令和7年度第1回伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事概要

開催日時	令和7年8月20日(水)10:00~11:10
開催場所	伊賀市役所4階 庁議室
出席委員	久 隆浩(近畿大学) 川上 正晃(三重県伊賀地域防災総合事務所) 島田 和幸(京都府山城広域振興局) 杉本 佳也(伊賀市推薦委員) 東 達廣(笠置町推薦委員) 谷本 友紀(笠置町推薦委員) 大仲 順子(南山城村推薦委員) 奥田 誌織(南山城村推薦委員) 奥谷 正美(山添村推薦委員) 中西 義樹(山添村推薦委員) 古谷 久人(名張市推薦委員) 我山 博章(名張市推薦委員) 長岡 孝寿(奈良県美しい南部東部振興課) 代理出席
欠席委員	大西 勝治(奈良県美しい南部東部振興課) 中浦 順一郎(伊賀市推薦委員) 川向 啓造(伊賀市推薦委員)
事務局	伊賀市未来政策部 風隼部長、中西次長(兼未来政策課長) 伊賀市未来政策課 森林係長、藤山 笠置町希望のまち推進課 田中課長 南山城村企画政策課 岸田課長、橋本課長補佐 山添村総合政策課 井上課長補佐、前川主事補 名張市なばりの未来創造部 名張市総合企画政策室 伊奈室長、西口係長
議事日程	1. 開会 2. あいさつ 3. 報告 (1)第2期伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン変更について 4. 議事 (1)令和6年度の事業実績及び今後の計画について (2)定住自立圏ロゴマークについて 5. その他
議事概要	1. 開会 ただいまから、令和7年度第1回伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン懇談会を始めさせていただきます。

★会議及び議事録公開の確認

本日の会議は、会議を公開し会議の傍聴を認めている。本日の会議を傍聴される方、報道関係者の撮影等について、ご了解、ご理解をお願いします。また、会議録についても公開させていただく。

★会議成立の確認

委員の半数以上の出席があるため、会議成立を確認。なお、伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱第6条第3項に規定があることから、大西委員の代理として、長岡様に出席いただいていることを報告。

今回の会議から三重県伊賀地域防災総合事務所の川上委員、名張市推薦委員の古谷委員が新しく変わられたことを報告。

★資料の確認

事項書の下に記載の配布資料の確認。

2. あいさつ

— 会長 あいさつ —

3. 報告

(1)第2期伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン変更について

— 事務局【資料1】第2期共生ビジョン変更、

参考資料1 パブコメ募集結果・変更案への反映結果 により説明 —

(委員):

ビジョン 23 頁の事業 No.1221「認知症・会議予防」の 2025 年度事業費について、伊賀市 9,149 千円、名張市 105 千円と大きな差があり、両市の人口規模や財政規模等を考えると、この差は違和感があるが、正しい数値が記載されているということでしょうか。

<事務局>:

名張市は、福祉分野に力を入れており、様々な事業を展開している。事業概要に該当する部分の事業費のみを記載しているため、大きな差があるように見えている。広い範囲の事業費で捉えると、金額は伊賀市と同等になると思う。

(委員):

ビジョン 22 頁の事業 No.1211「子育て支援」の 2025 年度事業費についても、名張市0円と記載されているので、精査していただきたい。

(会長):

伊賀市と同規模の名張市が定住自立圏に加わったことで、事業費の差が気になったように感じる。次のビジョン策定では、事業費の取り方について、誤解のないよう自治体間で調整いただきたい。あるいは、注記で「自治体によって事業費の取り方が異なるため、差が出ている」といった説明を入れることも検討いただきたい。

このビジョンは、各首長にご承認いただいたということで、次の事項に移らせていただく。

4. 議事

(1)令和6年度の事業実績及び今後の計画について

— 事務局【資料2】R6年度・R7年度の取組、

【資料3】第2期事業計画・実績表、施策 KPI 一覧 により説明 —

(委員):

施策 KPI 一覧について、成果指標の目標値を既に超えている実績値がいくつか見られる。例として、成果指標「河川美化活動及び啓発事業への参加者数」の目標値 350 人に対し、実績値 368 人とある。名張市の加入によって目標値の見直しは検討されるか。

令和6年度取組の教育環境について、南山城村から三重県立高校へ入学されたとある。これは難しいかと思うが、三重県の生徒が、例えば、南陽高校や木津高校などの京都府立高校に進学できる体制について、検討はされるか。

<事務局>:

施策 KPI については、既に目標値を超えているものについては協議を行いながら見直しを検討していきたい。

三重県外の高校への進学体制は、県や府の教育委員会同士の協議によって決定される。現在、奈良県教育委員会とは覚書を交わしているが、京都府教育委員会についても、話が進めば必要に応じて協議を進めていきたい。

(委員):

公共交通について、山添村から名張市内までバスが周回しているが、取組に記載されていないのはなぜか。

産科医療体制について、名張市内で産科が無くなったことが大きな問題となっている。今は伊賀市に産科が1つあるが、将来的にどう考えていくのか検討いただきたい。

二次救急医療について、現在は、3基幹病院の輪番体制となっているが、名張市立病院の経営が厳しく、加えて、伊賀市立上野総合市民病院についても、心臓や脳に関わる急性期の症状に対応できるか不安がある。場合によっては、それぞれの自治体が負担してでも、伊賀圏域で基幹病院を1つ作るというような構想があっても良いのではないか。これらの事は、住民が一番心配していることなので、今後協議していただきたい。

<事務局>:

公共交通について、仰るような形で記載していないと思う。今後分かるような形で表せるよう検討していきたい。

産科、地域医療はとても大きな問題だと認識している。第3期ビジョンでは、このような問題についても盛り込めるよう検討し、進めていきたい。

(会長):

産科医療体制の問題は、全国的にも産科医が減少しているので、取り合いになっている部分もあるかと思うので、圏域全体に医療サービスを提供するという観点で、出来るだけアピールしてお願いできたらよいと思う。

総務省も、全国的に人口減少が進む中で、各市町村だけでは様々な問題に対応することが難しいので、圏域内で色々なものを共用するという考えを示している。そういう意味で、定住自立圏が協力しながら、いかに分母として人口を保っていけるかという所だと思う。更に、近年、交流人口という言葉が定着したが、40年ほど前に兵庫県でその考え方が生まれた。兵庫県の但馬地域は、小規模人口の地域だが、音楽ホールや体育館等の立派な施設を作るという議論の中で、定住人口だけを見るのではなく、施設を他の地域住民も一緒に利用することを前提とした考え方が生まれた。定住人口が減少する中で、どのように相互利用していくかという観点が、まさしく定住自立圏の非常に重要な考え方で、そこも含めてどういうものを共有していくのか、そろそろ色々な所で考えていただければ有難い。

(委員):

公共交通ネットワークの構築について、令和6年度に三重県が JR 関西本線で

名古屋駅から伊賀上野駅までを直通運転する実証実験があったが、取組に記載が無い。また、名張市が関わったことから、伊賀鉄道を組み入れた今後の交通ネットワークの方針や事業を付け加えても良いと思う。

<事務局>:

直通運転実証実験については、県事業なので記載していない。また、名張市が関わったことによる伊賀鉄道を組み入れた今後の方針や事業については、実施できるようになれば記載していきたい。

(会長):

美旗駅は近鉄大阪線の特急停車駅で、名張市美旗地域コミュニティバスの「はたっこ号」が伊賀市きじが台に乗り入れを開始した。鉄道とバスで連携が図られたことによるメリットはすごく大きいと期待している。先ほどのご意見のように、名張市に近鉄大阪線が通っていることを他自治体も上手く利用して、更に公共交通のネットワークを充実させていただきたい。

どうしても分野ごとの計画になっているので、分野を超えた連携があっても良いし、そこをより強化いただければと思う。特に、公共交通機関は人が動いてこそ機能することから、イベントとバスや鉄道のネットワークを上手く組み合わせて、人が動きたくなるような仕掛けを作る必要があるのではないかと思う。また、そうすることで公共交通機関の利用が促進できるのではないかと思う。

今までは、伊賀市が中心市として色々なものを提供していたが、名張市も同規模の施設や行政サービスを持っているので、提供する側にもたくさん回っていただくとは期待している。名張市が加入いただいたことによるメリットをどんどん発揮していただければ嬉しい。

(2)定住自立圏のロゴマークについて

— 事務局【資料4】定住自立圏_ロゴマーク(案) により説明 —

(委員):

ロゴマークのコンセプトでは、「歴史」や「和風」とあるが、文字については現代風でポップな印象を受ける。

<事務局>:

コンセプトは、【資料4】に記載している通りで、色合いや文字については、ポップよりもシックなイメージとした。文字のデザインは全体のイメージに合わせた。

(委員):

前回と今回の案では、だいぶイメージが違う。前回の方が、色の組み合わせが多く、躍動感を感じる。今回の色合いは、落ち着きすぎていると感じて、和風と言われるとそうかもしれないが、躍動感や力を感じさせるような色合いも検討してもらった方がいいのかなと思う。

<事務局>:

前は、各自治体のイメージをポップに表現している。今回の案は、前回とは全く違うイメージのデザインとした。色合いや躍動感が感じられる方が良いといった意見もあるということで検討させていただく。

(会長):

シックなものが必ずしも和風とは限らず、例えば、組紐も伝統工芸品だが、色が鮮やかでシックではない色味もある。デザインについては、もう少し色々な案があっても良いかもしれない。

(委員):

前回のロゴマークは、やっと住民にも浸透してきたと感じており、全く異なったデザインのロゴマークに変更することは疑問を感じる。先ほどの意見のように、デザインのコンセプトでは「和風」とあるが、字体は現代風な印象がある。これは難しいかもしれないと重々承知しての提案だが、圏域住民に向けて何個かのデザインを提案し、審査してもらうのはどうか。自分達のロゴマークという意識付けにもなり、定住自立圏の広報にもつながるのではないか。

<事務局>:

中々、何案も作成することは費用もかかってしまう。公募も検討するが、難しいところではあるのご理解いただきたい。

(会長):

場合によっては、デザイン自体を住民から公募する方法も1つ。そうすると費用もかからないし愛着が沸くと思う。住民参加型で作るというのも一考と思うし、5市町村の住民に呼びかけて皆で作り上げるということが、住民同士の絆や交流を深めていくという意味でも、とても重要なきっかけだと思うので、またご検討いただきたい。

(委員):

もし公募するのであれば、是非、中学生、高校生、大学生も応募できるような呼びかけをしていただきたい。そうすることで、子どもたちの定住自立圏の未来に対する意識も広がっていくのではないかと思う。

(会長):

デザイナーに加わっていただくのであれば、選ばれたデザインを、最終的にきちんとした形に仕上げさせていただくことに関わっていただくといった方法もあるので、またご検討いただきたい。

5. その他

— 南山城村委員 —

・能登地震・水害被災地支援活動チャリティコンサート「絆音」in みなみやましろ開催のお知らせ

— 山添村委員 —

・てんまる絵描き歌コンテスト開催のお知らせ

— 事務局 委員旅費の説明 —

<事務局>:

他にご質問等よろしいか。これをもって、本日の会議を終了させていただく。どうもありがとうございました。